

医療機器開発の協組

県内製造4社 まず手術器具受注

県内の中小製造業4社は18日、医療機器の共同開発や受注を目的とした協同組合「HAMING（ハミング）」を設立すると発表した。各社の素材加工技術を持ち寄り、新たな手術器具などを開発する。

自動車メーカーなどの海外進出が進むなか、成長が見込まれる医療分野に参入し、受注確保をめざす。

参加企業はネジ製造の橋本螺子（浜松市）、金型製造の橋本エンジニア

リング（同）、岩倉溶接工業所（島田市）、二輪部品製造の榛葉鉄工所（掛川市）の4社。23日に創立総会を開く。

すでに4社が開発した手術器具の受注が決まっているという。今後は加入企業を増やすほか、浜松医科大学と連携するなどして機器開発を進めたい考え。医療以外に福祉用や健康器具の開発もめざす。

橋本螺子の橋本秀比呂社長は「地元企業の多くは医療機器開発のノウハウが少ないため、協力した方が効率が良い」と組合の利点を説明する。そのうえで、「地域で培ったものづくり技術を生かし、浜松を医療分野の集積地にしたい」としている。